

## 令和4年8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和4年8月2日(火) 午前11時00分～11時45分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ8社 12名

### 会見内容

#### 1. 話題提供(4項目)

##### 1 釧路市政策アドバイザーの任命について

- 釧路市政策アドバイザーに新たに任命される方について報告いたします。
- 7月1日(金曜日)付けで、コミュニティデザイナーであり、東北芸術工科大学 客員教授でいらっしゃいます、陳内 裕樹(じんない ひろき)氏、また、8月1日(月曜日)付けで、大阪教育大学 客員教授でいらっしゃいます、小出 泰久(こいで やすひさ)氏を、それぞれ釧路市政策アドバイザーとして、任命いたしました。
- 陳内氏は、デジタルトランスフォーメーション(DX)政策の推進・関係人口施策・デジタルマーケティングに造詣が深く、日本観光振興協会における観光立国推進協議会委員や内閣府のクールジャパン地域プロデューサーを務められるなど、観光をはじめとした地域におけるデジタル活用の専門家として広くご活躍されております。
- また、網走市や静岡県浜松市など多くの自治体でアドバイザーを務められており、自治体が抱える課題についても知見をお持ちです。
- 釧路市の観光立国ショーケースの取り組みにおいても、デジタルプロモーションを活用したインバウンド誘客施策として釧路市観光8K動画によるプロモーションを実施する際、ターゲット設定した国や地域の多くのユーザーに確実に視聴いただく手法に関してアドバイスをいただいた結果、夏編、冬編あわせて1,500万回再生を超えるなど、多大な貢献をいただいております。
- 小出氏は、長年教育業界の情報化に携わっておられ、現在では日本教育工学協会や一般社団法人日本教育情報化振興会、公益財団法人学習情報研究センター等で理事を務められるなど、幅広い知見と影響力をお持ちです。DXによる教育改革、ならびに、そのような環境で育った子どもたちが「将来も住み続けたい」と思える日本であるために、日本社会全体のDX化をライフワークとして取り組んでおられます。
- 現在、釧路市では、ICTをめぐる技術の進歩や国の動向を踏まえ、市民の生活があらゆる面でより良い方向に変化するよう「釧路市デジタル・トランスフォーメーション推進方針」を策定し、様々な取り組みを進めているところであり、今後釧路市においてDXをさらに推進するにあたり、両氏へ政策アドバイザーをお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただけることとなったものであります。
- 今後は、釧路市のDX推進をはじめ、様々な機会で、ご助言をいただけるものと

考えております。

## 2 タイ王国 F F T 観光人材受入について

- 次に、タイ王国 F F T 観光人材受入についてです。
- タイ政府が実施する国外へのボランティア派遣事業「Friends From Thailand (フレンズ フロム タイランド、通称：F F T)」の初めての日本派遣にあたり、この度、釧路市が派遣先に選定され、タイの観光人材を受け入れることとなりましたのでご報告いたします。
- この事業は、タイ王国外務省国際協力局 (T I C A (タイカ)) が 2 0 0 3 年から実施している、日本の J I C A (ジャイカ) 海外協力隊に類するボランティア派遣事業で、これまでにタイからアジア・アフリカ各国へ 1 6 0 人以上の人材を派遣しています。
- 今回は、タイと日本との新たな国際協力の形としてタイ政府が日本へのボランティア派遣を企画し、タイに事務所を置く J I C A を通じて釧路市に観光分野でのボランティア受入の打診があり、日本で初めての受入地として釧路市と熊本県球磨郡 (くまぐん) の 2 カ所が選定されております。
- すでにタイでの公募により人選が進められており、受入期間は本年 9 月～ 1 1 月の 3 か月間、活動場所は阿寒湖温泉地区を予定しております。
- ボランティアには、タイに向け釧路地域の魅力を発信してもらうほか、タイと釧路との交流人口増加を目的とした旅行商品の開発など、現地の地域おこし協力隊とも連携しながら、観光分野での地域振興に関わる活動を行っていただきます。
- 今回は初の日本派遣ということで、3 か月という短期間での試行実施となりますが、今後は年単位での受入継続も検討しており、本事業を通じて、タイとの交流人口拡大を継続的に推進していきたいと考えております。

## 3 「エネ補助」の申請受付について

- 次に釧路市省エネ等設備導入補助金、通称「エネ補助」の申請受付について説明いたします。
- この補助金は、令和 4 年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、原油高・物価高騰対策として実施するもので、化石燃料の消費の抑制と労働生産性の向上に取り組む市内の中小企業者等を対象に空調設備やボイラ、冷凍冷蔵設備などの省エネ対応設備や太陽光発電、蓄電池などの再エネ設備などの導入を補助する制度です。
- 補助率は 2 分の 1、補助上限額は 3 0 0 万円としており、申請要件として、釧路市導入促進基本計画に基づく「先端設備等導入計画」の認定 (変更認定を含む) を受ける必要があります。  
今年 8 月 1 日 (月曜日) から 1 2 月 2 8 日 (水曜日) までに認定を受けた「先端設備等導入計画」に記載のある先端設備のうち、市が指定する省エネ設備等に該当

するもので、令和5年2月28日（火曜日）までに導入される設備が対象となります。

- 補助金の申請受付は、令和5年1月16日（月曜日）から2月28日（火曜日）までとしておりますが、「先端設備等導入計画」の手続きには時間を要しますことから、早めにご準備いただきたく、本日お話しさせていただいたところです。
- なお、「先端設備等導入計画」の認定を受けることにより、固定資産税特例として、導入設備に対する固定資産税を3年間減免いたします。
- 補助金の詳細につきましては、8月2日（火曜日）より市のホームページに掲載いたします。
- 原油高・物価高対策として実施する取組でありますことから、多くの事業者にご活用いただきたいと思います。

#### 4 「Bizサポ補助金2022」（二次募集）の申請受付について

- 釧路市中小企業・小規模事業者活性化補助金、通称「Bizサポ補助金2022」の、2次募集について説明いたします。
- この補助金は、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施するもので、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、売上アップや人材確保などに積極的に取り組む市内の中小企業や小規模事業者を支援する制度です。
- 今年5月の1次募集では、たくさんの事業者から申請をいただき、121事業者、3,564万1千円の交付決定を行いました。
- 引き続き支援の要望を受けており、今後も一定程度の申請が見込めるものと判断しましたことから、この度、予算を追加し、2次募集を行うことといたしました。
- 対象事業は、新製品・新サービス開発、販売促進、店舗改修、人材確保、そして設備投資にかかる取り組みとします。
- 補助率と補助上限額は、中小企業が、補助率3分の2、上限額は50万円、小規模事業者が、補助率4分の3、上限額は30万円です。
- 補助金の申請受付期間は、8月22日（月曜日）から9月2日（金曜日）まで、申請方法は、原則オンライン申請といたします。  
先着順での受付とし、予算額（約1,500万円）に到達次第、受付を終了する予定です。
- 申請書等の詳細につきましては、8月2日（火曜日）より市のホームページに掲載いたします。
- コロナにより落ち込んだ市内経済の回復に向け、事業者の皆様へ、新たな取組の

一歩を踏み出していただきたい、そこを積極的に支援するための補助金であります。多くの事業者の皆様にご活用いただけるようお願いいたします。

## 2. 質疑要旨

(質問)

- ・ タイ王国F F T観光人材受入について、釧路市が受入先に決まった経緯、人数を教えてください。また、阿寒湖温泉地区の活動場所が支所や宿泊施設など決まっているものがあれば教えてください。

(市長)

- ・ 経緯としましては、J I C Aの活動も含めこれまでの様々な市の取組に高い評価をいただいていることや国内3カ所（長崎、金沢、釧路）で取り組んだ観光立国ショーケースがあります。また、昨年バーチャル開催、来年リアル開催しますアドベンチャートラベル・ワールドサミットのきっかけも、(主催団体A T T Aの)シャノン会長が2016年に訪問され、豊かな自然と様々な取組が評価されています。こういった、積み重ねや体制が釧路のPRにつながったと認識しております。

人材につきましては、選考結果が昨日タイで発表されたと聞いており、人数は1名、女性で観光業務経験があり、日本語で会話もできる方と伺っております。正式な報告はこれからとなります。

(観光振興室長)

- ・ 阿寒の観光協会に籍を置き活動する予定となっております。

(質問)

- ・ 政策アドバイザーを今回2名任命されましたが、今回の2名以外にどのような方が何名いますか。また、今回陳内氏と小出氏を任命した経緯を教えてください。

(市長)

- ・ 釧路市の政策アドバイザーはこれまで3名の方がいます。一人目が石井 至氏で、北海道観光振興機構のアドバイザーや国の様々な委員を務められている方です。二人目が総務省官僚で釧路市の総合政策部長も務めていただき、現在奈良県庁におります浅見 仁氏です。三人目は新型コロナウイルスの時に任命しました坂元 晴香氏で、公衆衛生の専門家として感染症対策に助言いただきました。今回の陳内氏と小出氏につきましては、DXをしっかりと進めていくために、地域の状況や国の動向をしっかりと把握されており、市民生活を豊かにしていくための具体的なイメージや様々な取組などをご指導いただくために最適な人材でありますことから決めさせていただきました。

(質問)

- ・ 陳内氏と小出氏の来釧の予定はありますか。

(市長)

- ・ 8月22日に来ていただき、私や教育長と打ち合わせを行う予定となっております。

(質問)

- ・ 先日北海道が発表しました津波の被害想定につきまして、最悪で死者が8万4千人、対策しても3万7千人という衝撃的な数字でしたが、この被害想定に対する市長の受け止めに聞かせていただきたい。また、対策として津波避難施設の整備など市が関わらなければならないものがあるが、どのような順番で進めていくのかお聞

かせいただきたい。

(市長)

- ・ 被害想定を出すにあたって、北海道には大変細かな対応をいただいたと思っています。大きな数字ではありますが、定量的な被害想定ではなく、しっかりと地域の実情を踏まえた被害想定を出していただいたと受け止めています。そういった中で、非常に大きな衝撃的な数字ですが、早期避難率が20%の場合や最悪の場合など条件があり、早期避難率20%を70%に上げるとこれだけ防ぐことができるということです。早期避難をしっかりと進めていくことが重要だということが、この被害想定の中にあるメッセージだと受け止めています。

その中で我々は、避難する施設をしっかりと確保していくこととなります。前回の北海道のシミュレーションの時に民間のご協力もいただき、大変多くの一時避難場所を確保することができました。ただその中でも避難困難地域の解消まで至っていないところであり、早期に解消していくことが重要と考えていますので、進めていきたいと思えます。そのうえで、しっかりと避難を進めていくための市民への周知や様々な対策を進めます。

あわせて国の開発建設部などの各機関と情報共有し、例えば高速道路に階段を付けてもらうなど様々な対策をすることで、時間的に5分くらい確保することができれば大きなことでありますので、そういった場面を設けながらしっかりとした対策を進めていきたいと思えます。

今は避難困難地域を早期に解消することを第一義に進め、合わせて避難の重要性や対応を進めていきます。

もうひとつ、一時避難場所と避難場所の進め方も考えていかなければならないと考えております。特に低体温症対策があり、一時避難所は命を救うということで、民間の様々な場所を借りる中で屋上などもあり、難しいと考えております。その後の避難所をどういった形で進めていくかということもいろいろと検討、相談していくこととなります。

(質問)

- ・ 避難困難地域とは大楽毛を念頭にしていますか。

(市長)

- ・ 大楽毛と星が浦です。若干基準水位の数値が変わりましたので、こういった対応を行っていくかということになります。前回よりも歩くスピードも遅くなっておりますので、そういったことも踏まえこの対応策を早急に行っていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 国の機関などと協力という話でしたが、津波避難施設の整備については、若干国の補助率が上がっていますが、国や北海道に対してはもっと補助してほしいと思っていますか。

(市長)

- ・ 現状、特別措置法の改正により、国内の最高水準である南海トラフ同様に半分から3分の2に上がりました。合わせて残りの3分の1に対する起債の制度も国が出してくれております。南海トラフの場合は、県等でも負担の対応にいろいろ違いがありますので、北海道にも負担の要請をしているところであり、相談しながら進めていきます。

先ほど話しました国の機関との協力については、負担の制度の問題ではなく、対

応策になります。今回のシミュレーションは避難をベースに作られており、例えば防波堤などによって少しでも津波の到達が遅くなればそれだけ人が助かるというものであり、直轄で管理いただいている部門と情報共有していきながら、どのような対策ができるかという議論を進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 今の関連で、避難所をいつまでにどれだけというものがあれば教えていただきたい。また、衝撃的な数字が出た中で、市民に呼びかけたいことがあれば伺いたい。

(市長)

- ・ 避難所の設置については、収容率の問題になりますが、何%を目標にするというよりは、可能な限りしっかり確保できるように進めていきたいと考えています。少しでも早く逃げるのができた方がいいですので、全体数を多く確保するということではありますが、あくまでも人が動ける時間の中で、できるだけ多く確保することが重要で、まさに命を救う所が一時避難ですので、そこに向けた取り組みになります。そのうえで、避難困難地域はその場所がなかったわけですので、そこは対策を講じていきます。可能な限り一時避難はしっかりと確保して行きたいと考えております。

今まで避難路の確保や避難所の確保などの対策を行ってきました。早期避難率を20%から70%に上げることで、これだけ被害を減らすことができますので、避難の重要性ということが、今回の被害想定で示されたものと考えており、私も一時避難場所を可能な限りしっかりと確保してまいりたいと考えたとともに、そこまでの避難路を確保していくという形をとってまいります。今後「避難すれば助かる」という情報を出していきますので、一緒になって大変な状況から窮状を脱していく取り組みを進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 避難困難地域の対策が急務とのことですが、具体的にこういった対策を想定されていますか。

(市長)

- ・ 当然高い場所を確保しなければなりません。基準水位が変更になり、使える施設が出てきているところであり、そこで収容率を確保しなければなりません。北海道で検討されている避難タワーというものもありますが、暖かいところと北海道では違いもあります。日ごろから使える施設があって、そこが避難所になることが一番望ましいと思っています。そこが老朽化すれば、更新しながら安全性を確保することになります。場所によっては避難タワーを観光資源に使っているところもあります。そのところをまず現状を踏まえた中で早急に示していきながら、進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 世間では旧統一教会との関係のあり方について問題視されていますが、蝦名市長も2014年から4回ほど「ピースロード」に参加されています。これに参加された経緯と旧統一教会関連の団体のイベントであることをご存知であったのか教えてください。

(市長)

- ・ 「ピースロード」が栄町平和公園で開催されるという案内をいただき、これまで

4回出席しました。統一教会が主催ではなく、実行委員会が主催で行われたものです。その関係者、例えば韓国の国会議員の方が何人か出席される中で、世界平和と日韓友好を目的に若い人たちが自転車で周っていくという活動であり、釧路がゴールだったと記憶しております。韓国の国会議員の方が出席されるという案内で出席したものであります。

(質問)

- ・ 旧統一教会が訴訟などのトラブルを抱えている団体だと認識していましたか。

(市長)

- ・ 靈感商法などの事情があることは認識していましたが、旧統一教会がどういう状態であったのかはきちんとは認識していませんでした。

(質問)

- ・ 主催がその関連団体であったということは認識があったということですか。

(市長)

- ・ メンバーの中にいることは承知しておりましたが、主催は基本的に実行委員会が行い、釧路で開催されたことから、スケジュールが合いましたので参加したという状況です。

(質問)

- ・ 道議や市長選でその関係者から支援、例えば電話がけのボランティアなどを受けたことはありますか。

(市長)

- ・ 道議の時はありません。市長の時は2期目と3期目の選挙期間中に、集まりがあるのでそこでお話をという話があり伺いました。

(質問)

- ・ 組織票の取りまとめを依頼したことはありますか。

(市長)

- ・ いいえ。選挙期間中でしたが、話をする機会をいただき、ご挨拶をさせていただいたということです。

(質問)

- ・ 今後「ピースロード」など同じようなイベントの出席依頼が来たときは、どうしていこうと考えていますか。

(市長)

- ・ 今こういった事件が起きているところであり、当然しばらくは慎重に対応していくことが市政にとっては必要なことと思っております。

(質問)

- ・ 確認ですが、2回目、3回目の時の集まりというのは、その関連団体が主催した会合ですか。

(市長)

- ・ 選挙期間中に挨拶する機会を作りますのでということでしたので、こういった集まりなのかは承知しておりません。私は選挙期間中でしたので、市政についてのお話をさせていただきました。選挙のために集まったというよりは会合の中でという

認識の方が強いです。

(質問)

- ・ 主催は何か間に団体が入っていたのか、旧統一教会がされたのか。

(市長)

- ・ 会場が教会の場所でしたが、しっかりとした認識はしていませんでした。

(質問)

- ・ お話された内容は。

(市長)

- ・ 選挙期間中ですので、選挙の話です。

(質問)

- ・ 各期間1回ずつですか。

(市長)

- ・ そうです。

(質問)

- ・ 集まった人数はどれぐらいでしたか。

(市長)

- ・ 40～50人くらいだったと記憶しています。